

「自ら学びに向かう子どもの育成」

～自ら課題を発見し、解決する力の質の向上をめざして～

校内研究授業 3年「心も体も元気にプロジェクト」

目標:集めた情報を整理し、分析することで課題について考えることができる。

【授業者より】

- ・学習活動を整理する必要があった(ロイロノート共有、ローマ字うちなど作業が多かった)
- ・前半で出てきた意見を取り上げて進めたほうがよかった
- ・「次は…」と次の段階を意識している様子がみられた
- ・ロイロノートを積極的に活用したのは、タイピング得意な児童が活躍できるように考えたため



【討議会にて】

～良かった点～

- ・子どもなりに理由を考えて意見を出せていた
- ・心(気持ち)にも目を向けていた
- ・自分たちでアンケート調査に行く行動力◎
- ・アンケート結果をみんなで見に行く(主体的◎)
- ・「もう一度5年生に聞きいく」など次の行動を考えられていた



～課題点～

- ・情報収集が少ない
- ・整理分析するには難しい段階
- ・ロイロノートで共有することによる弊害(話し合うより画面に集中してしまう)



【指導助言より】

- ・みんなでアンケート結果をのぞきこんで話している姿◎
- ・情報収集が少ない。今回のアンケートは「プレアンケート」

本アンケートの準備段階として活用することができる

- ・困ったときに助け合える集団づくり◎



【まとめ】

「探究プロセス」における「情報収集」の段階で、必要な情報をなるべくたくさん集めておくことで「整理分析」につながりやすいと気づかされました。「探究プロセス」のサイクルに子どもがのっている様子もうかがえました。子どもにとって「次に何をするのか」が分かり、先生方にとっても情報収集の仕方や整理分析について新しく気づくことがあり、学びのある研究授業だったと思います。

各学年部に分かれて相談会



高学年

- ・子どもたちとロードマップを作成する。
- ・指導者があらかじめ、すべきことを徹底的に調べておく。
- ・総合はカリキュラムマネジメントが肝。その都度カリキュラムマネジメントを見直し作成していくことが必要。

【6年】早急に夏祭りで呼びかけを考え中

【5年】客観的根拠を集める(情報収集)

次の動きがはっきりし、先生たちにとっても「やりたい」と思える相談会になった。

中学年

【3年】今取り組んでいる元気にするプロジェクトについて「自分を」元気に→「となりを」元気に→「周りを」元気に→「みんなを」元気にするというステップを確認し、学校を巻き込むことは可能かどうか検討した。学校を巻き込むことは可能性として十分にあるので、11月には「学校中を元気にする」プロジェクトが動くように9,10月の内容を逆算した。

【4年】3つのテーマが並走している状態だが、このまま進んだ場合どうなるかの検討。現状、情報収集と整理分析が多いので、実際行動を起こしてみるのもよいとなった。



低学年

各担任からそれぞれ、1学期の探究サイクルを意識した生活科の学習活動について報告があり、指導助言の先生から「とても良いですね」というお言葉をいただいた。

・5歳から10歳までは、遊びの中での探究的な深まりが大切。キーワードは「深く遊ぶ」

・活動を通してどんな気持ちになったか大人教のポスターから選ばせる。

・環境構成や、子どもの見取り方を幼稚園の先生から学ぶといい。

以上のことを踏まえて、公開授業のときは、1・2年生合同で遊びを中心に活動をする方向で検討中。できれば幼稚園さんにも参加してもらえたら。



今後授業づくりをおこなっていく際に大事にしたいこと

★全体計画(全70時間)を明確にさせる

研究授業において本時しか見ていなくても全体計画の中の1時間と考えて見ていると必要な1時間だと分かる。

★子どもたちと一緒に悩む(フリをする)問い返し

投げかけるではなく、伴走する意識で。(本来は伴走なんて必要なくなるのが理想?)

1学期間で先生方が意識して取り組んでこられた「探究プロセス」。子どもたちの活動の様子を見ていると、どの学級においても探究サイクルの輪に入っているな～と感じられます。低学年の様子を見聞きしている中でも、子どもたちの声を聞いて植える花を決めていたり、子どもたちでたんけんしたい場所を話していたり、「やってみたい」を意識して取り組みを進めてこられたと感じます。探り探りではありますが、学校全体で意見交換しながら引き続き進めていきます。